

avancer 『アヴァンセ』

令和4年度・第11号

令和5年3月吉日 所長 海老澤政昭

いよいよ年度まとめの面談が始まります。今回の面談では、第三者評価の結果を受けて、少し個別支援計画の一部を変更しています。目標を年度目標に、課題を前期課題・後期課題としました。

成人における発達の課題を考えた場合、半年や1年で大きな変化が見られることはそうはないと思われます。障害の有無にかかわらず、0歳から3.5歳程度までは目まぐるしく運動、言語、認知の部分で変わっていきますが、それ以降は、とても緩やかになっていきます。生活介護や就労継続支援B型の利用者は18歳以上がほとんどですので、変化はとても緩やかと考えていいと思います。この発達の課題を考える場合、質的な課題と量的な課題、タテの課題とヨコの課題を考慮する必要があります。乳幼児期における目まぐるしく変化する発達の課題は、質的な課題であり、タテの課題になります。発達保障論における考え方では、成人期の発達課題として重要なのは“ヨコの課題”であり、この課題は無限であると言われていています。当然、支援員や指導員にとってもこの課題は存在します。そして、これらの課題は人と人とのかかわりの中で育っていくということ忘れてはなりません。私たちはその人と人とのかかわりを“発達の共感関係”と捉え、その関係をゆたかに育む中でこそ、ヨコへの拡がり保障される、と考えています。

この“ヨコへの拡がり”を達成していくための取り組みを“課題”とし、その“課題”を達成すべく方法等を“具体的手立て”として記載することとしました。仲間たちの課題としての“課題”と支援員の“課題”が同時に存在し、その双方の課題が互いに高め合うことにより、双方の“課題”は大きく変化すると考えています。発達の課題とは、支援する側と受ける側という関係ではなく、“互いが高め合う関係の中でこそゆたかになっていく”に違いありません。

私たち支援員及び指導員は常に自身に厳しく対峙しつつ、取り組む上での「原点」を忘れずに、かつ大切に実践を進めています。



就労継続支援B型

2月の行事



生活介護



放課後等デイサービス

今回のB型ランチは、チキンライスと手作りラスクパフェを作りました。チキンライスには、畑で採れたスティックセニョールと芽キャベツの温野菜を添えました。パフェのラスクもスチコンで手作りし、プリンとフルーツ缶とホイップクリームで盛り付けしました。見た目よりボリュームもあり、みんな喜んで完食してくれました♪生活介護では、今年度3回目の、宍戸先生によるコンサルテーションを実施しました。支援の助言や仲間一人一人に対する強みの再認識など、勉強になることが盛りだくさんです。お忙しい中、横浜よりごうでいんぐへお越しくださることは、大変ありがたく感謝いたします。

放ディでは、じゃがいもの種芋を植えました。今回は、B型、生活介護など全事業所で協力して作業を行いました。事前にたい肥などを蒔いて耕運機で耕しておきました。畝づくりは、理事長が畝づくり用耕運機で11列畝を作っていたいただき、全員で手分けしてマルチシートをかけ、午後の作業で植え付けを行いました。芽が出てくるのが待ち遠しいです♪

【編集後記】—ご協力をお願いいたします—

放ディでは、新入学の利用者や低学年、支援級の利用者の方の為に、指導訓練室小のプチリニューアルを進めています。以前より多くのご寄付を頂いておりますが、再度、使用しなくなりました絵本やおもちゃなどがありましたらご寄付をよろしくお願いいたします。事業所全体で使わせていただきます。

